

〔佳作〕

自然に思いやりを

札幌市立大倉山小六年

中村 絵里菜

今年の八月、私は父の転きんで、千葉県から札幌に
来ました。

私の部屋からは、宮ヶ丘のユースの森がすぐそこに

見え、すばらしいながめは、別荘にでもいる気分です。

日曜日朝、父はきまって、私と妹に

「森林よくいくよ!」

といつて、円山公園に散歩に行きます。

すがすがしい空気と、木々の緑。

「体が緑にそまりそう」

と私が言うと、妹が

「何だか、青虫になってしまいそうだね」

といつて笑いました。

動物園にいるものとばかり思っていたリスを、木のしげみの中で見た時には、びっくりしてしまいました。私は、こんなすばらしい自然のある札幌が大好きになりました。

でも、雪がチラチラふり、友だちとスキーの話が出るころ、どの車も、スパイクタイヤをつけ、車粉で空気がよごれ、私の顔や鼻がよごれ、目が痛くなりました。たのには、がっかりしたりおどろいたりしました。

それで、私は空気をよごす原因は、どんな物があるのだろうか、調べて見ました。

一つは、札幌の車粉公害のように、人間が空気をよごしているものです。自動車のはい気ガス、工場地帯のえんとつから出るばいえんやガス。そして、今、アフリカのきがで問題になっている中央アフリカなどのやき畑農業も、空気をよごしている原因です。

もう一つは、自然が自ら空気をよごしているものです。それは、火山灰や、春ころ西風につれて、日本にやってくる砂あらし(こうき)です。二十年後には、自然と人間がよごした割合は、半分ずつになるといわれ

ています。そうすると、今よりも、もっと、空気のごれがひどくなります。

四十数億年の昔、地球には、酸素が少ししかなかったそうです。そこへ植物が姿を現し、炭酸同化作用で酸素をどんどん作り出したから、酸素を利用する動物が生まれたのです。

地球の植物が減ることは、酸素の生みの親が減ることなのです。それを考えないで、人間は建設用の材木を手に入れるために、山林を切りはらい、じやりや砂石を手に入れるために、山をけずっています。緑の少ない山は、集中ごう雨の時、山くずれ、地すべり、そして、おそろしい山津波になるのです。緑の少ない山の恐怖なのです。

また、今、社会問題になっているアフリカのきがの底には、人が自然を大切にしなかつたすさまじさを実感した、との報告を新聞で見ました。

地球の自然、植物の数がへり、やがて酸素がへって、きれいな空気が無くなってきたら、どんな時代になるのだろうと思うと、おそろしくなりました。

もしかしたら、スーパーなどでも、「きれいな山の空気」すばらしい海の空気」という名のカンヅメが出て、本場に、みんなが行列して買いに行くようになるかもしれません。また、ガスマスクをしなければ、外にも出られなくなるような事になったら、大変なことです。ガスマスクのファッシュンショーを始める時代にならないようにしなければなりません。

自然は、きれいな空気を減らさないということのほかに、私はこのごろ、自然は、人の心を清め、おおらかさや、勇気を与えてくれると思うようになりました。

私は札幌に来て、初めてスキーをしました。ばんけいの山の上から下を見た時の、あの、足のすくむようなおそろしさ。でも、私の代わりに、だれもすべりおりにしてくれないのです。こわいけど、がんばってすべりおりた時のうれしさ。こわがり屋の私が、びっくりするくらいの勇気を、自然が与えてくれました。とてもさわやかな気持ちになりました。それは、どんな本にもまさるものだと思うのです。

この間、ユースの森に、母と妹と、さん歩に行きました。見たこともない小さな草花が、きよらかに美しく咲いていました。雪の下で、長い間春を待って、今やっと、花をさかしている姿に、はく手をおくりたい気持ちで、とてもうれしく思いました。でも、帰りぎわに、道路のわきの草むらの中に、水ばじょうの花が四〜五本捨ててあるのを見て、私は、とてもさみしい思いでいっぱいでした。

人間が空気をよごしているのは、一人一人が本当に未来を考え、自然を大事にすることで解決されると思います。今の私たちに出来る事は何か、と考えた時、私は、自然に思いやりを持って、仲よくすることではないかと思いました。

私は、自然のいっぱいある札幌が好きです。